

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

77

有害鳥獣捕獲等事業

[長期総合計画]

分野別目標	1	安定した雇用を生み出す産業が元気なまち
政策	3	農林水産業の活性化
施策	1	農林業の振興
取組方針	4	農業と環境の共生

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	農林水産業費		
	項	農林緑花費		
	目	林業振興費		
	大事業	林業振興事業		
中事業	有害鳥獣捕獲等事業			

事業種別	継続		関連個別計画	
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel 農林水産課 中兀 成浩 435-1049
事業実施の根拠法令			関連課	

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	農作物被害の軽減を図る		有害鳥獣の捕獲等による個体数管理を行い、農作物被害の軽減を図る			
事業内容		平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		有害鳥獣捕獲許可及び「和歌山市防除実施計画」に基づく捕獲依頼事務等	有害鳥獣捕獲許可及び「和歌山市防除実施計画」に基づく捕獲依頼事務等	有害鳥獣捕獲許可及び「和歌山市防除実施計画」に基づく捕獲依頼事務等	有害鳥獣捕獲許可及び「和歌山市防除実施計画」に基づく捕獲依頼事務等	有害鳥獣捕獲許可及び「和歌山市防除実施計画」に基づく捕獲依頼事務等

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成30年度		平成31年度		令和02年度		令和03年度		令和04年度		
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	
事業費	17,740	20,525	16,574	18,805	18,670	20,325	18,640	0	0	0	
伸び率(%)	△6.1%	△7.5%	△6.6%	△8.4%	12.6%	8.1%	△0.2%	△100%	△100%	0%	
人件費	正規職員	4,636	7,353	8,699	9,021	8,440	7,883	0	0	0	
	正規職員以外	4,739	2,382	2,387	2,387	636	636	0	0	0	
	小計	9,375	9,735	11,086	11,408	9,076	8,519	0	0	0	
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県支出金	4,751	5,908	4,751	6,633	5,947	7,125	5,947	0	0	0	
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源(税等)	12,989	14,617	11,823	12,172	12,723	13,200	12,693	0	0	0	
所要人数(人)	正規職員	0.58	0.92	1.08	1.12	1.06	0.99	0.00	0.00	0.00	0.00
	正規職員以外	1.91	0.96	0.96	0.96	0.96	0.96	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	業務委託料 9,471千円										

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
野生イノシシ捕獲実績頭数		頭	目標値	1300	1300	1300	1300	
			実績値	1048	968	1220		
			達成度(%)	80%	74.5%	93.8%	%	
野生アライグマ捕獲実績頭数		頭	目標値	300	300	300	300	
			実績値	244	230	232		
			達成度(%)	81%	77%	77%	%	
野生イノシシ捕獲実績頭数		頭	目標値	1300	1300	1300	1300	
			実績値	1048	968	1220		
			達成度(%)	80%	74.5%	93.8%	%	
野生アライグマ捕獲実績頭数		頭	目標値	300	300	300	300	
			実績値	244	230	232		
			達成度(%)	81%	77%	77%	%	

4 事業の評価

評価基準				
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい 減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要 見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能 市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む 緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満) 達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある 貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない 見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	有害鳥獣対策は本市の農業振興また市民生活を守る上で、重要な問題である。イノシシ・アライグマ等による農作物被害に加え、最近では生活環境被害が増加している。捕獲と併せて防護柵設置の普及を図り、農作物被害の軽減を進める必要がある。
見直し・改善内容	有害鳥獣においては、近年農地だけではなく市街地にも出没する事案が発生し、被害が多様化しているため、対応が後手に回る場合がある。今後は捕獲のみにとどまらず、市民に対して鳥獣の正しい知識を周知し、事故等を未然に防止する必要がある。